

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 合志市社協「れんがの家」		
○保護者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30 (回答者数)	26
○従業者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階・年齢に合わせた発達支援の策定と支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員、保育園・幼稚園、関係機関との連携を図り、児発管、担当職員が親子面談、親子れんが(親子療育)、療育参観の機会を通して本人、家族に寄り添ったニーズの把握に努めている。</li> <li>・定期的な会議や日々の情報交換を行い、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)への取り組みを継続し個別支援を提供している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども・家族からのより具体的なニーズが把握できるように、家庭・園等への訪問の充実を図っていく。</li> <li>・内外部研修への積極的参加が行えるよう、調整を行い専門性向上に努めていく。</li> <li>・職員間で統一した支援を提供する為、より一層情報共有・検討の機会を作っていく(職員情報共有ツールの活用)。</li> </ul>
2	地域との関わりを持った地域連携・地域移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内外の行事へ参加・参画し、地域交流の場を設ける事で、地域社会への参加やインクルージョンの推進を図り、法人内外の連携に努めていく。</li> <li>・保育園・幼稚園など関係機関との連携を図り、地域での子どもの育ちを支援している。</li> <li>・保育園・幼稚園への送迎を通し、日々こどもの様子を具体的に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会の強みを生かし、地域住民と共に、地域に開かれた事業運営に取り組んでいく。</li> <li>・こども・家族の意向を確認し、関係機関と今後も連携し、地域で安心・安全な育ちができるように努めていく。</li> </ul>
3	・ICT(連絡帳アプリ等)を活用した家族への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリを活用した連絡帳には、当日の活動の様子を写真を添付し、即日こどもの様子を共有している。</li> <li>・迅速に伝えたい内容があれば、公式LINEを活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族とのコミュニケーションツールとしても、連絡帳の内容の充実を図り、こどもさんの成長をより丁寧に伝えていけるように努めていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日の開所時に、親子面談、親子れんが(親子療育)、療育参観等の機会を設けているが、就労状況や家庭環境等で参加できない家族もいる。</li> <li>・園・事業所では、本人の特性にあった支援の提供ができてはいるが、保護者が自宅での関わり方に苦慮している部分へのアプローチが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子面談・療育参観・家庭訪問等を通して、丁寧に聞き取りを行い、こども、保護者の困り感に寄り添った相談支援を行い、ご家庭に合わせた説明・学びの機会を設け、家族自身のエンパワメント働きかけを行っていく。</li> <li>・保護者の都合に配慮し、個別の面談の機会や参加しやすい回数や時間を設けながら、定期的な振り返りの機会を確保する。</li> <li>・発達障がい者支援センター、児童発達支援センター等が開催する家族向けの研修、ペアレントトレーニング等を発信していく。</li> <li>・職員も上記の研修に参加、参画することで個別支援の強化、地域の療育体制の強化につなげていく。</li> </ul>
2	施設環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気を持つ民家を活用している。しかし、構造化しにくい場所もあるので、随時、他事業にも協力を依頼し、個々のニーズに沿って、常に職員全員で安全に活動できる環境設定、プログラム内容の工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全計画を元に、危険箇所がないかの定期点検、訓練を計画的に行っていく。また、迅速なヒヤリハットの検証を行う事で、こども、家族が安心、安全に利用できる空間になるように努めていく。</li> <li>・職員の視野も広がるように、専門的支援研修に参加することで、職員の強みへとつなげていく。</li> </ul>
3	職員の外部研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の質の向上の為にも、職員が研修に参加する時間を確保する為には、余裕をもった人材確保が必要と思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども、保護者の満足度を得る為にも、安心、安全な環境で支援を提供した上で、職員のスキル向上、モチベーション向上につながる研修参加ができるように、法人内で今後も検討を重ねていく。</li> </ul>